

1.7GHz帯移動通信システムの利用に係る調査結果

(調査期間：平成24年9月28日～同年10月11日、回答提出者：3者)

回答提出者	イー・アクセス(株)	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ	KDDI(株) /沖縄セルラー電話(株)
(1) 1.7GHz帯の利用を希望する理由	利用中の周波数帯に隣接しており、設備開発等が容易で低廉な料金でLTEの高速サービスが即時に提供可能であるほか、競合他社と同等な高速サービスの全国展開や、本年度中にトラヒック増加への対応が困難になるため、利用が必要不可欠	高トラヒックエリアにおけるデータトラヒックの急増状況が、今後も継続することが予測されるため、早期の周波数利用を希望	データ通信トラヒックの需要増に対処し、かつ携帯電話の高速ブロードバンド時代に備え、より高速でより円滑な移動体データ通信を実現するため
(2) 1.7GHz帯において利用を希望する技術と利用希望時期	技術：3.9世代移動通信システム(LTE) 時期：可及的速やかな時期(平成25年1月からの利用開始を希望)	技術：3.9世代移動通信システム(LTE) 時期：可能な限り早期(特に高トラヒックエリア)	技術：3.9世代移動通信システム(LTE) 時期：周波数割当て後早期
(3) 基地局整備の方針	既存の1.7GHz帯LTE基地局展開規模と同等のエリア展開を短期間で実施可能であり、その後も既存計画に同期して整備を実施	高トラヒックエリアは可及的速やかに整備し、その他地域は、トラヒック状況に応じて順次エリア拡大を実施	高トラヒックエリアから整備し、極力早期に全国展開を実施
(4) 3.9世代移動通信システムの高速化の計画	利用開始時点で10MHz幅(75Mbps)以上のサービスを実施し、平成25年中には15MHz幅(112.5Mbps)の導入を検討するほか、700MHz帯とのキャリアアグリゲーションについても検討	可能な限り早期に、キャリアアグリゲーション(他周波数帯のほか、割当済の1.7GHz帯との組み合わせも想定)を利用し、75Mbps以上の高速化を実施	周波数割当て後のシステム導入早期から、高トラヒック需要エリアを中心にキャリアアグリゲーションを利用し、75Mbps以上の高速化を実施